市民が主役

清瀬の農業ウーマン
～人々の心を豊かにする花を育てる～
花卉（かき）栽培農家　森田　良枝美さん

野塩で父と夫の3人で花卉（花・葉・実など、観賞用に栽培する植物）栽培に取り組んでいる森田さん。幼少から市場に連れて行ってもらったりしていたため花は好きだったそうですが、農業をやろうとは思っていなかったとのこと。しかし今では、花卉栽培の魅力にはまり、農業女性後継者の会にも参加するなど、日々奔走しています。

今号では、若い女性の目線で農業のアピールに力を入れている、森田良枝美さんにお話を伺いました。

おしゃれでくり色の髪が良く似合う森田さん。華奢（きゃしゃ）な体でも力仕事をこなし、軽やかに動き回ります。

もともとネイリストとして働いていましたが、農業をしていた母が家族の介護に専念することになり、4年前から仕事を減らし農業を手伝い始めました。2年前の結婚を機に夫婦で本格的に就農されました。平成25年の農業まつりの農畜産物品評会では、初出品のビオラが「東京都農業会議会長賞」を受賞しました。

「東京都農業会議会長賞」を受賞

市内のイベントにはほとんど参加し、花苗や鉢バラ、切り花、寄せ植えなどを販売する他、昨年からはバラ園をオープンしました。

新しいことにどんどん挑戦しながら、毎日大好きな花を丹精込めて育てています。

ネイリストから花卉栽培農家に転職

―全く違う職種の仕事ですが、実際に働いてみてどうですか？

運動専門の学校へ行くため中学受験し、職場も地元から離れていたので清瀬のことをほとんど知らず、なじめるか心配でしたが、農業はとても奥が深く、特に花卉は色や形の繊細さ、鑑賞したり誰かを喜ばせたり、見た瞬間「わっ！」と気持ちを盛り上げてくれるような感覚がネイリストと似た魅力を感じたのは大きかったです。

手をかければかける程仕上がりが良くなりますし、育つ様子を見ているのもわくわくします。出荷する花を選ぶ時や寄せ植えを作る作業は一番好きで、とにかく楽しいです！

―新たなチャレンジで苦労を感じたことはありますか？

長年バレーボールとハンドボールで培った体力と、負けず嫌いで「やる」と決めたら必ず実行しないと気が済まない性格のため、ハンディを感じたことはあまりありません。どちらかというとそれ以外のことに苦労しています。

例えば、家族経営なので上司が両親です。意見を伝えても子どもとしてしか対応してもらえず、何度も何度も悔しい思いをしました。今はそれが自分の課題で、どんな言い方をしたら伝わるか、例を挙げたり実際に数字で結果を示したりしています。

大好きな「寄せ植え」に使う花を選ぶ作業

―花卉以外も栽培していますか？

メーンで作っているのは花壇苗やポット苗ですが、花は繊細で暑さに弱いので、春と夏に野菜苗を作っています。野菜はできたものではなく苗を売ります。最近は、家庭菜園自体が流行（はや）っているので、トマトやゴーヤの苗を育てる人が増えているようです。

毎年の農業まつりでは、森田さんらが手がけた花を販売する

未経験でも農業はできる

―農作業の一日の流れを教えてください。

時期により異なりますが、8時30分からミーティングを行い、その日の業務内容を皆で共有し、9時ごろから作業に入ります。働きやすいように計画を立てることで、女性でも未経験者でも農業はできるということを身を持って実感しました。

作業にあたりいろいろと学ぶなかで、「土地柄に合わせた売り方」をしないといけないということに気が付きました。最初は「おしゃれにかわいくやりたい」と思っていましたが、ニーズがなければ売れません。清瀬では、購入される方の多くは年配の方で、淡いピンクよりも濃いムラサキなど、はっきりとした色が人気です。でも、ちょっとしたところに手を加えてかわいく見せる工夫もしています。

バラ園をオープン

―昨年、バラ園を開園されたと聞きました。

父が約7年間、千葉にあるバラの会社に勤めていて、「いずれはまたバラがやりたい」という希望を持っていたので始めてみました。自宅の横の農地に約200品種・700株のバラを植えたところ、市外からもお客さんが来園してくださり、「電車に乗ってたらきれいなバラが見えたから降りてみた」と突然いらっしゃる方もいました。

今年も春と秋に開園する予定ですので、ぜひ見に来てください。

若い女性の目線で農業をアピール

―森田さんのように女性後継者として働いている方向けの会があるそうですね。

「女性後継者が集まる場所が少ない」と感じ、「マルシェ」（平成25年9月に結成）という会に参加しています。都内の女性農業後継者が生産した農産物を、女性の目線で販売する企画などを行う会で、現在9人で活動しています。

昨年12月に南新宿で、採れたて野菜や花、加工品など全95種類・千228個を販売する「アグリパークマルシェ」を行いました。これは農林水産振興財団の取り組みで、将来を担う農業後継者に焦点を当てた初のイベントでした。当日は、都市部の消費者の皆さんに私たちの地元の野菜・花・加工品などを販売し、直接お話しできたことは大変貴重な体験でした。なにより同業者の女性と交流できることが心強く、消費者ニーズの把握を期待する面でも、長く活動を続けていけたらと思います。

野塩のバラ園。写真の他にもいろいろな色のバラを植えている

どんなお客さんが来るかわくわくしながら準備したアグリパークマルシェ

―市民の方などと交流するためにアイデアはありますか？

ペデストリアンデッキや清瀬にある公共施設に花を植える植栽工事も行っています。最近では市役所の玄関前も手掛けました。

植栽工事で作業する花卉クラブの方は年配の方が多いので、若い方もボランティアで参加できるような体制があればと思います。皆で活気ある雰囲気で活動していれば、多くの方の目にとまり、若い方にも花に関心を持ってもらえるのではないかとも思います。また、いつも植えている時に思うのですが、ロータリーでの車の乗り降り時や、花壇をまたぐ際は、もう少し足元に気を配ってもらえたらうれしいです！

―今後やってみたいことはありますか？

悩みなどを打ち明ける女性同業者が周りにいないので、たまにさみしい気持ちになりますが、現在母が家事や介護などで自分の時間を削りながらも、空いた時間はハウスに来てくれ、誰よりも一生懸命家族や私たち夫婦を笑顔で支えてくれていることが私の力になっています。今後も家族仲良く仕事をやっていくことと、バラ園にもっとくつろげる空間を創れればと思います。来園者がのんびりお茶を飲んだり、かわいい加工品なども販売できたらと思います。

今は知り合いだけに施術しているネイルも、バラの見えるプライベートサロンとして合間にできたらと思っていますし、花の加工品にもこれからどんどん力を入れていきたいと考えています。

―清瀬は「農のある風景」が一つの特徴ですが、農業に興味のある方にアドバイスをお願いします。

農業の担い手は男性というイメージを持っている人は多いと思います。実際、夏の炎天下や冬の寒い日、強風でも雨や雪が降っても外で働きます。虫もいるし、重い物を運んだり、泥だらけになるのが普通ですし、まだまだ女性の意見が取り入れられたりすることは少ないのが現状ですが、とてもやりがいのある仕事なのでマイナスにとらえないでほしいです。

また、農業といっても、経営形態や規模によって多岐に亘（わた）ります。どんな農業をしたいのかをよく考えて、自分に合う働き方を見つけることが大切だと思います。

バラ園にいらしてください

5月・10月頃に開園します。

場所　野塩5-237

入場料　300円

問合せ　森田☎491・1375 Mail sunhanayuki@gmail.com